

平成31年度(令和元年度)

## 市立横手病院 総務課の方針書

組織名	市立横手病院 総務課
所属長名	柿崎 正行

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

- ・患者さん中心に、安心・安全な医療の提供に努めます
- ・地域の医療・保健に貢献します
- ・健全な病院経営に努めます

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- ・急性期医療の提供・・・7対1看護基準の維持(重症度、医療・看護必要度を30%以上を維持)
- ・医療スタッフの確保・・・医師、看護師、薬剤師、管理栄養士等の確保
- ・院内改修基本設計、実施設計の策定
- ・働きやすさ確保のための環境整備・・・院内保育所の検討
- ・働き方、休み方の改善・・・時間外勤務、年休取得率の向上
- ・病院機能評価受審に向けた準備・・・継続的な医療の質改善

### 3. 今年度の『スローガン』

心ふれあう人間味豊かな対応を心がけます。

### 4. 今年度の方針

- ★施設整備・改修に係る基本設計・実施設計の実施
- ★働き方改革への対応、院内保育所の検討、環境整備(駐車場整備)
- ★医療スタッフの確保、機能評価受審、改元・消費税改定への適格な対応

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	施設整備・改修に係る基本設計・実施設計の実施
	取組内容	H30年度末に策定した市立横手病院施設整備基本計画に基づき、より具体的な基本設計・実施設計に着手する。 食養科厨房の改修期間中の給食の運用、食堂・売店のコンビニ・イートイン化についても業者選定を実施しその運用に則した設計を行う。
(2)	実現したい成果	働き方改革への対応、院内保育所の検討、環境整備(駐車場整備)
	取組内容	院内保育所の候補地の取得及び運用の検討(運営時間・病児保育等) 出退勤システムを活用した労務時間分析の実施。(時間外削減・年休取得率の向上) 職員駐車場の整備(設計・舗装)及び新規土地の価格交渉
(3)	実現したい成果	医療スタッフの確保、機能評価受審、改元・消費税改定への適格な対応
	取組内容	各種リクルート説明会への積極的参加 機能評価受審を見据えた業務点検及び改善・業務の標準化 改元への適切な対応(システム更新等) 10月の消費税改定に対する適切な対応(条例・規程改正、各種契約変更契約、各種システム対応)

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

【施設整備】 基本設計が完成し、現在は実施設計に入っている。コンビニの業者選定については、1社しか申込みがなかったが仕様要件合致により選定。また、給食委託については2か年の債務負担を設定し、2社より提案を受けたが現行業者について継続採用の予定。

【働き方改革等】 院内保育所については、病児保育所の方向で検討中。出退勤システムは安定稼働しているものの今後は電子カルテとの親和性及び休暇・時間外の電子申請も含め再構築中。職員駐車場については新規土地の獲得見込。

【機能評価受審】 病院機能評価受審については、決定的不備事項もなく終了。改元への対応もスムーズに終了した。医療スタッフの確保については、引き続き積極的に取り組んでいく。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

### 【施設整備】

実施設計内容による、実工事費の算定・予算要求を行う。また、議会に対しても整備内容について報告する。

### 【働き方改革】

出退勤システムの電子カルテシステム連動型への移行。(各種申請の電子化)

### 【機能評価受審】

機構からの中間報告を受け、必要な改善について取り組む。

### 【医療スタッフの確保】

診療報酬改定のうち、人的部分(専従・専任)の情報収集、スタッフの確保に努める。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

### 【施設整備】

実施設計に基づき、実工事費と年割額の積算を行い、継続費予算を編成し、議会に当初予算案を上程した。

### 【働き方改革】

出退勤システムの電子カルテシステム連動型への移行が終了し、庶務機能との連携も開始した。

### 【機能評価受審】

機構からの中間報告により1点は改善実施、もう1点については医師確保も絡むため改善については厳しい状況。

### 【医療スタッフの確保】

看護師について、大幅増員を行うことができた。また、コメディカルについても薬剤師・言語聴覚士それぞれ1人確保することができた。

平成31年度(令和元年度)

## 市立横手病院 医事課の方針書

組織名	市立横手病院 医事課
所属長名	医事課長 高橋 功

### 1. 組織の使命(ありたい姿)

- ・患者さん中心に、安心・安全な医療の提供に努めます
- ・地域の医療・保健に貢献します
- ・健全な病院経営に努めます

### 2. 組織の抱える課題(現状)

- ・急性期医療の提供:7対1看護基準の維持・継続
- ・効率的な医療の提供と病床管理:病床利用率80%、平均在院日数12日、在宅復帰率90%
- ・チーム医療の充実:糖尿病治療の強化、栄養管理体制の強化
- ・電子カルテシステムの更新と業務改善:システム更新を契機とした業務改善
- ・消費税改定及び次回診療報酬改定への対応:H31.10及びH32.4
- ・病院機能評価受審に向けた準備:継続した医療の質改善

### 3. 今年度の『スローガン』

安心できる良質な医療の提供で信頼される病院を目指します

### 4. 今年度の方針

- ・安心・安全な質の高い医療の提供に努める
- ・健全な病院経営に努める
- ・電子カルテシステム更新及び業務改善の実施

### 5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	急性期医療の提供を通じて地域医療の支える
	取組内容	7対1看護基準の維持、病床利用率80%及び平均在院日数12日の確保を図るために各種関係データ等の収集・分析を行うとともに院内医療チームの充実に関するデータ等の分析を行い、主に経営面からの急性期における安心・安全な医療の提供を図る
(2)	実現したい成果	消費税改定及び診療報酬改定への適切な対応
	取組内容	平成31年10月に予定される消費税率引き上げ(8→10%)に伴う診療報酬改定及びH32年4月における診療報酬改定に適切に対応するために情報収集に努め、地域包括ケアシステムを支える医療機関として地域における自院の立ち位置を含めて適切な対応を図る
(3)	実現したい成果	電子カルテシステムの更新に合わせた業務改善の実施
	取組内容	現在の電子カルテシステム導入後、初めての全面的な更新であり、正確でスムーズが移行を図るとともに従来のシステムで使い勝手の悪かった点等の改善を図る。また、患者さんや使用する職員に合わせた業務改善の実施を図る

## 6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1) 適切な対応により基準看護は維持されている。病床利用率は77.2%、平均在院日数は12.9日という結果となった。各種データについては院内へフィードバックに努めた。
- (2) 情報収集を行い、消費税改定に伴う対応はシステム改良を含めて対応済である。診療報酬改定(R2.4)に向けての情報収集等は進めてきた。
- (3) システムベンダーの駐在体制を受けて担当者ヒアリング等を行い、システム更新に合わせた業務改善等の検討を行った。

## 7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1) 病床利用率及び平均在院日数について目標値を下回っており、その改善に努めていくとともに、更に適切なデータ分析等に基づく結果を院内への周知し、活用に努める。
- (2) 令和2年4月からの診療報酬改定に対応するために、引き続き情報収集や改定シュミレーションを行い、適切かつ継続した医療の提供を図る。
- (3) 担当者ヒアリングを受けた協議等を行い、年内でのデモ実施や並行稼働等による検証を実施しながら令和2年2月1日からの新システム稼働時まで業務改善等を図る。

## 8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1) 適切な病床運営に努め、年度として急性期の「一般病棟入院基本料7対1」を維持する見込みである。在院日数は11.9日(2月末)となっており、下半期で改善しているが病床利用率は74.9%(2月末)と目標の80%は未達の見込みである。引き続き、患者さんを断らない医療の展開で地域医療を支えて行きたい。
- (2) 消費税改定には対応済。診療報酬改定については情報収集に努めているが新型コロナウイルスの流行等のため研修会が中止になるなどの影響を受けている。WEBでの情報収集等に基づき、改定シュミレーションや院内研修会の開催等を行い、適切な対応に努めて行きたい。
- (3) 導入時以来の全面的なシステム更新であったが、集中した取り組みで年内でのデモ実施や検証を行い、令和2年1月15日での切り替えを実施した。導入後の稼働状況は概ね良好であるが、細かな課題を解決しつつ、継続しての運用に結びついている。課題としては短期間での更新のため、業務改善と結び付けた導入の面で不足した部分があり、今後の改善を目指して行きたい。